

〔書評〕 IMMUNOBIOLOGY : THE IMMUNE SYSTEM IN HEALTH AND DISEASE.

Charles A. Janeway, Jr. And Paul Travers 著
Current Biology Ltd., Garland Publishing Inc. 出版 (1994年/5,400円)

大谷 文雄

北里大学医学部, 免疫学

本書は米国, 英国の医学生, 大学院生向けに書かれた免疫学の教科書で, 内容は最新の知見を述べていながら説明は平易であり, 図も多くてわかり易い。現代の免疫学を理解する上で恰好の本である。

免疫学の近年の進展はめざましく, そのため, 名著と言われた教科書も十年前のものは, もはや古典に属するような状態である。また, この十年間の新たな教科書の出版も著しく少なかった。これは, 免疫学研究の進歩があまりに早かったために, 教科書が出版された時点で既に最新の知見から遅れてしまうおそれがあったからである。この間に出版された免疫学の本は主に最新の知見を分担執筆した本であり, 適当な筆者を得た分野についてはくわしく述べられていても, 免疫学の体系全体を語るものとはなっていないし, 説明にも統一性が無かった。

このような急速な免疫学の進歩もここ数年落ち着きを見せはじめ, 免疫学の新たな全体像の確立がなされたため, 免疫学の体系自体の変革をとまなうような発見は見られなくなりつつある。その意味ではちょうど今が現代免疫学の教科書の書き頃であると言えよう。

本書はこのような時点をとらえて書かれたエール大学の C. A. Janeway とロンドン大学の P. Travers の共同執筆による免疫学の教科書である。A 4 版626ページから成るこの本は以下の五つのパートから構成されている。

- I An introduction to immunobiology
- II The recognition of antigen
- III The development of lymphocyte reper-

toires

IV The adaptive immune response

V The immune system in health and disease

I から IV までは各々二つの章に, V は四つの章に分けられており, 全体的には, 古典的な免疫現象から説きおこし, T細胞レセプターによるMHC及びペプチドの認識, 多くの細胞接着因子やCD抗原系の解説, 種々のサイトカインの役割等の最新の知見の説明にまで至っている。

特筆すべきは, 図の豊富さと美しさで, 図を眺めているだけで免疫学の大筋は理解できるし, 図の説明文をつなげただけでも教科書になり得る。英文も比較的簡単に読み易く, また各章, 各パートごとに“まとめ”と“参考文献”が列記され, 巻末には付録として, CD抗原系の解説や, 種々のリンフォカインを整理した表, 更に簡単な用語解説まで付いているのも便利である。

本書は免疫学全般の教科書であるために, ヒトHLA抗原に関する記述は極めて少なく, その点は組織適合性学会会員には多少不満が残るかもしれないが, 免疫学におけるMHCの重要性がくわしく述べられており, HLAをMHCの中の一員として理解し, 更にMHCの免疫学における役割りを理解する上では適当な記述であると言えよう。

本書はペーパーバックの為, 安価(5,400円:筆者が日本国内の一般書店にて購入の価格)であるのもありがたい。本書の日本国内取扱い代理店は南江堂書店。同店によれば今秋、笹月健彦教授監訳による日本語訳版が出版される予定とのことである。